

## 浅虫DE寺子屋

本活動は青森学術文化振興財団の助成事業「浅虫地域力の強化」の一つとして、青森公立大学生が講師となり、浅虫居住の小・中学生を対象に2020.1/11～1/12の二日間、浅虫町民会館で行われた学習塾である。授業は個別指導形式で行われ、中学生に3教科(国語、英語、数学)を指導し、小学生に全教科の勉強や宿題を手伝った。延べ参加者数は学生9名(小学生7、中学生2)、講師7名、その他に子供を連れてきた親御さんと町会関係者の方々が見学した。

参加学生から「家でやるより集中できてもう宿題を終えた」「次回も参加したい、兄弟や友達と一緒に参加する」、親御さんから「漢字が綺麗に書けるようになった」「教室の雰囲気も良かった」、講師から「勉強だけでなく、休憩時間に子供同士で楽しく遊んだ」「子供との交流ができた」、町会関係者から「子供が大学生と触れ合う良い機会だった」「中高年者にスマホやパソコンを教えてほしい」との意見があり、参加人数は少なかったものの、初めての試みのわりには好評と成果が得られたので、来年度も続けたいと思う。

今後検討すべき課題として、参加者を増やす方法、募集対象を浅虫居住に限らず地域学校(東陽小学校、東中学校)まで拡大する必要性、ボランティア講師確保の問題、中高年者向けのスマホ・パソコン教室などが考えられる。これから本活動が参加者を増やし、一定規模の成果と実績をあげて、外部資金の助成なしに地域住民が自立的に企画・運営できるような「有償ボランティア活動」へ発展することを期待する。

研究代表者: 地域連携センター  
兼任研究員 丁 圏鎮



初日に参加した学生と講師



少人数だからできる  
個人指導形式(小学生部)



米国から帰国した英語  
講師の授業(中学生部)

## 青森県内の高等教育機関におけるボランティア活動に関する比較研究

本研究では、青森県内に位置する大学および短期大学のボランティア支援部署へのアンケートにより、学生ボランティアの活動状況、学校による支援実態を解明した。

学生ボランティアの活動分野は、非常に多岐にわたることが明らかとなった。加えて、福祉に関する活動の割合が特に高く、まちづくりや除雪のボランティアのように地域に根差した活動も積極的に行われることが明らかとなった。また、学校は、学生がボランティア活動へ従事することに対し、多岐にわたる効果を期待しており、概ね期待通り効果が得られたと考えている。中でも、コミュニケーション能力向上、地域への貢献、活動自体の経験への期待が高く、効果が高いとみなされる。そして、支援内容は学校により大きな差がみられたが、情報提供は大多数の学校で実施されていることが明らかとなった。この情報提供の方法は、掲示板が中心であり、来訪者への直接伝達や、メール・メーリングリスト・メールマガジンによっても行われていた。また、学生へのインセンティブに関しては、考慮しない学校も少なくないが、表彰、単位付与、活動証明書の発行などが実施されていた。

今後の検討課題としては、学生の自発性を醸成する活動支援の解明などが挙げられる。

研究代表者:  
地域連携センター専任研究員 石本 雄大

